

L06-01 櫓の写真・絵など

Old Pictures and Photos

広重や北斎の絵に櫓をみることができる。櫓は、エンジン／船外機の登場まで、小型船の主力の推進器具だった。

1 広重の絵より

画像は、「広重の大江戸名所百景散歩」(人文社・1996年刊)より。江戸期にはすでに櫓は技術的に完成していた。



「鎧の渡し小網町」(部分)。



From
Hiroshige's
Haneda no Watashi
Benten no Yashiro
1856-1858
Meisho Edo Hyakkei

copied from
isbn4-7959-1902-x
"Hiroshige no Oh-Edo
Meisho Hyakkei Sampo"
p.151
/1996 Jinbunsha

「羽田の渡し弁天の社」(部分)。

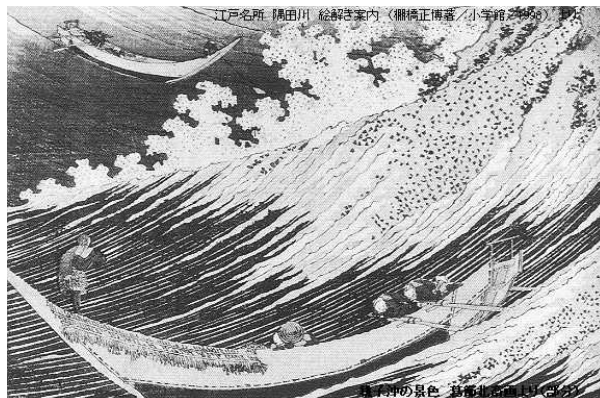
2 北斎の絵より

画像は、「江戸名所 隅田川絵解き案内」(棚橋正博, 小学館, 1998)より。二人が竿で出港しているところだが、櫓も載せているので沖では櫓を使うのだろうか？乗客7名を載せた船で、櫓の推力を知る手がかりになりそうだ。



絵本隅田川兩岸一覽 (葛飾北斎 1801)より 高輪の高台より血島への漕しの風景

銚子沖で、両舷各2丁(計4丁)の櫓による推進。舷側に張り出した櫓の操作はどのようにするのだろうか？



高輪の景色 葛飾北斎画(1801)

3 明治時代の写真より

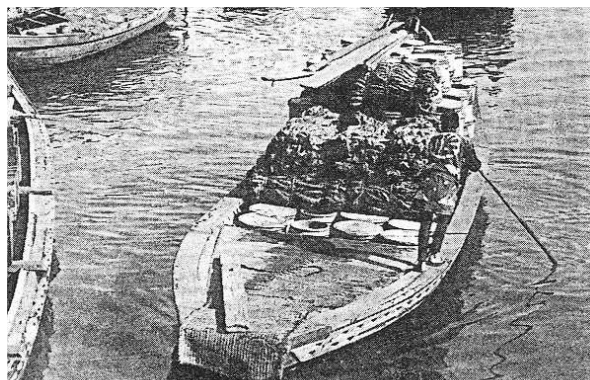
画像は、「写真展「和船」展示資料図録」(日本海事科学振興財団1990)より。隅田川の日除船は、浅瀬に置かれた状態で、船型もよくわかる。櫓の他にもうひとつ柄のようなものがあるがなんだろう？

写真展「和船」展示資料図録 (財団日本海事科学振興財団1990)よりNo.43隅田川、花見の日除船 (横浜開港資料館蔵)



隅田川の日除船

瀬取船。上に櫓が載っている。この時代、もちろん船外機もなく、帆か櫓か棹だけであったのだと改めて認識させられる。



写真展「和船」展示資料図録 (財団日本海事科学振興財団1990)より、No.55日本橋川を行く瀬取船 (左側)より部分